

地震災害における技術士の役割

守屋資郎

(応用理学+建設+森林+総合技術監理部門)

(株)パスコ東北事業部 技術センター

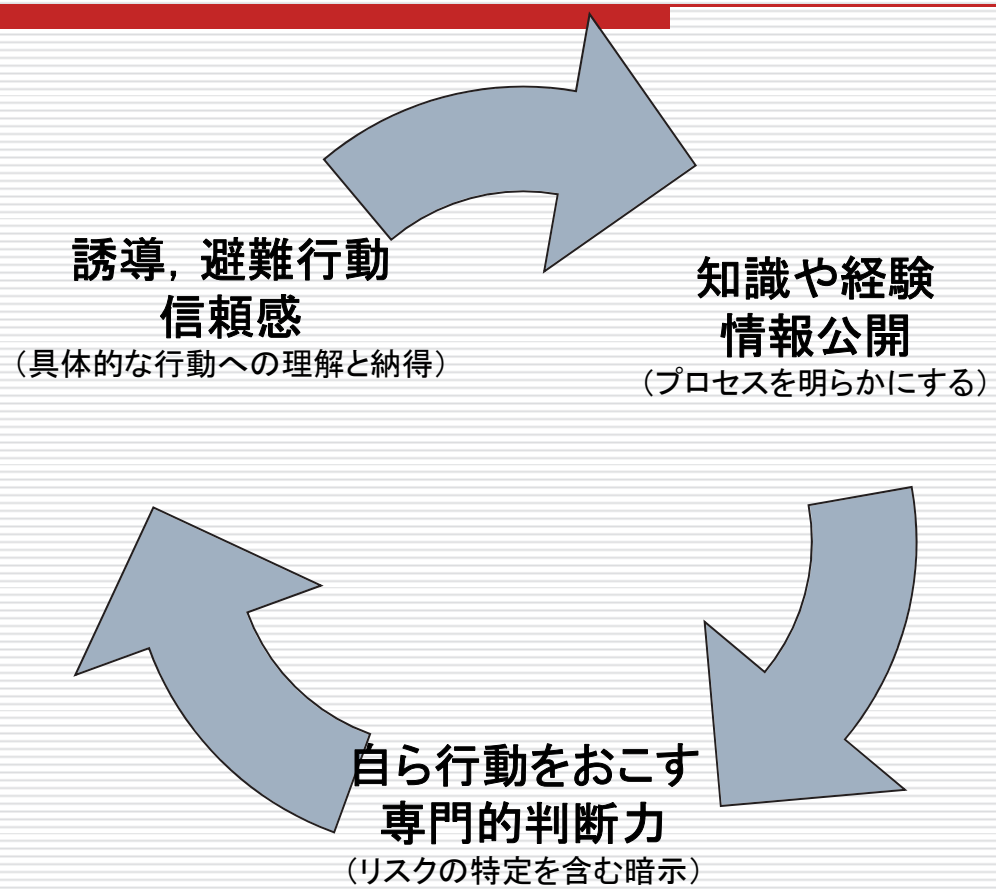
お伝えすること

1. 自己紹介
2. 活動の中で気づいていること
3. 技術士の特性
4. 特性を生かした貢献域
5. 対象への理解(基礎知識?)
6. 努力目標
7. NPOへのかかわり

活動で感じていること

- 地震は避けられないが、影響の最小化は可能。
- 被害は物心両面でダメージをこうむる。
- 列島耐震化は不可能、剛から柔へ。
- 自助＋共助なしの防災はありえない。
- 関心や意識が低いのではなく、“自ら”がないだけ。(楽観と諦観の複合)

被害者、犠牲者ゼロをめざして！



**誘導、避難行動
信頼感**
(具体的な行動への理解と納得)

**知識や経験
情報公開**
(プロセスを明らかにする)

**自ら行動をおこす
専門的判断力**
(リスクの特定を含む暗示)

防災活動のすがた

□ 定式

人(市民) + もの(投資) → 資源(地域防災力)

触媒(触発): 情報、知識など

□ 自助 \geq 共助 $>$ 公助

□ 化合(パワー、力) \geq 混合 $>$ 混在

技術士の売りもの

- ①実務者である。
- ②業際・学際領域に精通している。
- ③ネットワークの活用が日常意識している。
- ④フットワークがよい。
- ⑤市民との接点が多く、対話に慣れている。

防災における役割

□ 翻訳者になる

→市民に対する知識や経験を説明する

←市民の知恵を引き出す

□ 地域を知ってもらう

□ 関連、関係分野の技術者と協働する！

主たるテーマ 「土地の安全性」を知る

①物としての性質

→構成、耐力、利用の歴史

②支配される作用

→被害発生メカニズム、進展性

③一次、二次災害の特徴

④事前対策と事後対応

市民との協働が必須

□ 地域を愛したい＝地域を知りたい



地域づくり・作られるもの

□ 地域とは 歴史・風土・環境
景観・利便性・安全安心



防犯、防災＝安心

住民の役割(期待)

- 高齢者: 知恵と経験、伝達
- 若齢者(高校生を含む): 体力、判断力、支援
- 中学生以下: 手助け、避難所などでの癒し役
(避難所の雰囲気づくり)

シミュレーション実施の開発

マイマップ、ゲームを通じて地域
知の醸成を図る

地域コミュニティ再生

地域の団体等を中心に学
びと訓練の場の環境整備
を行う

市民への防災・減災

地域の知的・人的資源の活用

地域の経験者、専門家などの協
力のもとでの事業展開

市民との協働

NPO法人等と連携して事業展
開

努力目標（自分のため）

- 「タダでお伝えします」のサービス精神
- “お宝“（知識や経験）の応用
- プレゼンテーション力の向上
- キャリアアップにつながる
- 後継者養成、理科教育支援との連関



- * 技術業務に役立たせる
- * 役立つためのヤードと考える

NPOという組織の利活用

- 情報収集源、実践の場 (利用)
- 専門的な視点と市民生活者としての視点 (知る)
- 市民、ユーザーの視点を学習 (学ぶ)
- これからの専門技術者養成 (学ぶ)
- 知恵や技術の需要は知識と経験から！ (伝える)
- 有能な技術者の有効活用！ (情宣・活用)

災害における専門家の役割

(基本) 伝達 + 説明 + 理解 (合点承知)



協力・同意 → (共助 + 協働)



行動の具現化、自分のフローチャートを持つ
(経験してきたノウハウの活用)